

今日の説教のポイント<ヨハネによる福音書 20 章 19~23 節>

①恐れていた弟子たち。その恐れを取り除いた主イエスの平和！

「あなたがたに平和があるように」は、ユダヤ人を「恐れて」集まっていた弟子たちのことを思って主が語りかけて下さった言葉です(19)。

「平和」は「平安、安心」とも訳せる原語です。主が「もう恐れることはない。「安心」しなさい」と呼びかけて下さったので、弟子たちに再び「平安」が戻った、とヨハネは伝えているのです。

②この主の「平和」には、もっと深い意味があった！

「イエス様が現れたのだから、元気が出るのは当たり前」と思うかもしれませんが、しかし、もっと深い意味があったのです。主は弟子たちに既に、「私は、平和をあなたがたに残し、私の平和を与える。私はこれを世が与えるように与えるのではない。心を騒がせるな。おびえるな」(14:27)、「これらのことを話したのは、あなたがたが私によって平和を得るためである。あなたがたは世では苦難がある。しかし、勇気を出しなさい。私はすでに世に勝っている」(16:33)、と語られていたのです！ 弟子たちは主のこれらの言葉を思い出したことでしょう。

ここで大事なことは、「私の平和を与える」と言われていることです。「どんなに平和がないと思える時にも「私の」平和を与える、だから勇気を出しなさい」、と言われているのです。求めるべきは、幾ら手に入れても不安がぬぐい切れない「この世の平和」ではなく、これさえあればどんな時にも大丈夫な「主の平和」です！ 「まず神の国と神の義を求め。そうすれば必要なものはすべて与えられる」(マタイ 6 : 33) と思いながら生きて行けるようになるからです。このことが理解できるようになること、それが信仰です。大きな恵みです。

③信仰者に託された使命あり！ この赦しの神様を伝える使命！

「彼らに息を吹きかけて言われた、『受けなさい。誰の罪でも、あなたがたが赦せば、その罪は赦される』」(22-23)。私たちは、イエス様が担っておられた使命を引き継ぐために信仰者とされたのです！ どんな罪深い者も赦して下さる神様を人々に伝える使命です！ 「誰の罪でも、あなたがたが赦さなければ、赦されないまま残る」。これから私たちが考えるべきは、赦されない罪人もいる、ということではありません。むしろ、使命を託された私たちは、懸命に、赦しの神様を伝えなければならぬのだ、ということでしょう。